



☆ 例題28 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

ある新聞記事によると、この4月から新入社員として働きだした若者のうち、かなりの人数が「そろそろ今の会社を辞めよう」と考えているという。その中の一人の主張は次のようなものだ。

大学時代の専門を生かした仕事につくつもりで今の会社を選び、新しい技術の研究に関する仕事を希望していた。ところが、実際に与えられたのは、修理用の部品を管理する仕事だった。必要な部品の種類や量を確認し、パソコンで資料を作り、工場に連絡するといったことをしている。同じことをくり返すだけでつまらない。もっと自分が生かせる他の会社に移りたい。

①彼が「やりたいのにやらせてもらえない」という仕事は、本当に彼が満足できる仕事なのだろうか。仕事がおもしろいかどうかは、実際にやってみなければわからない。実際にその仕事について、②「こんなはずじゃなかった」と思う可能性もある。

会社という組織では、希望するかしらないかに関わらずさまざまな仕事を経験でき、多くの仕事と出会う。仕事にどう取り組むか次第で、働く前に想像した「やりたいこと」以上におもしろい仕事が見つけれられるかもしれない。

仕事とは、経験を重ねる中で「こういう仕事ではこういう工夫ができる」と自らが発見していくものだ。仕事のおもしろさは、積み重ねがあってこそわかるものだといえるだろう。

問1 ①彼とは、どのような人か。

- 1 仕事を辞めたばかりで、新しい仕事を探している若者
- 2 大学時代に、修理用の部品について研究していた若者
- 3 仕事の経験は短い、仕事を辞めるつもりでいる若者
- 4 パソコンで資料を作ることが苦手で、苦勞している若者

問2 ②こんなはずじゃなかったとはどういう意味か。

- 1 やりたかった仕事はおもしろいと思っていたのに、おもしろくない。
- 2 やりたい仕事をやらせてもらえと思っていたのに、やらせてもらえない。
- 3 やっている仕事が嫌いだと思っていたのに、好きになった。
- 4 やりたい仕事はできないと思っていたのに、その仕事につけた。

問3 筆者がこの文章で最も言いたいことは何か。

- 1 専門を生かした仕事につくには、大学時代に専門性を身につけたほうがいい。
- 2 会社組織に入る前に、自分を生かせるのはどんな仕事かを知るべきだ。
- 3 やりたい仕事より、やりたくない仕事のほうがおもしろいに違いない。
- 4 自分に合った仕事かどうかは、ある程度続けてやってみなければわからない。

キーワード：新入社員、若者、会社を辞める、主張、経験

→新入社員が会社を辞めることについて書かれた文章？

問1 に答える

「①彼」の言い換えを探す。

「①彼」= 2行目の「その中の一人」= 「4月から新入社員として働きだした若者」

- 1：辞めたばかりではない。
- 2：修理用の部品について研究していたとは書かれていない。
- 3：正解
- 4：パソコンで資料を作ることが苦手とは書かれていない。

問2 に答える

下線部「②こんなはずじゃなかった」の前後を見る。

「やりたいのにやらせてもらえない」仕事=やりたい仕事

仕事がおもしろいかどうかは、実際にやってみなければわからない。

実際に「その仕事」について、②「こんなはずじゃなかった」(=予想と違った)と思う可能性もある。

(普通の予想では、「その仕事」についていたらおもしろいはず)

- 1：正解
- 2：実際にやりたい仕事についたときに思うことなので、やらせてもらえないのではない。
- 3：仕事が好きになったとは書かれていない。
- 4：やりたい仕事についたことが予想と違ったのではない。

問3に答える

段落ごとに内容をつかむ

第1～2段落：仕事を辞めるつもりでいる若者の主張 = 専門を生かせる仕事がしたい

第3～5段落：その若者に対する筆者の意見

疑問提示文：①彼が「やりたいのにやらせてもらえない」という仕事は、本当に彼が満足できる仕事なのだろうか。

答え：仕事がおもしろいかどうかは、実際にやってみなければわからない。

仕事とは、経験を重ねる中で…と自らが発見していくものだ。

仕事のおもしろさは、積み重ねがあってこそわかるものだ

全体をまとめる

ある若者は「仕事がおもしろくないから会社を辞める」と言っているが、仕事のおもしろさは経験を積み重ねてこそわかることだ。

- 1：大学時代に専門性を身につけたほうがいいとは書かれていない。
2：会社組織に入る前の話は書かれていない。
3：やりたくない仕事のほうがおもしろいとは書かれていない。
4：正解

練習53 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

以前、猫の雑誌で読者の人の投稿(注1)を読んでほっとさせられた(注2)ことがある。子育てが一段落したという投稿者の女性は、日々猫に癒されている(注3)そうなのだが、猫がごはんを食べたりしただけで「たくさん食べて偉いね」などと褒めちぎっているのだという。そんな自分の行動から、「自分の子どもにも口うるさいことばかり言わずに、もっと優しく接して褒めてやればよかった」と振り返っていたのだが、子どものいない私にもその言葉は心に染み入るものだった。

子どもに限らず、家族や友人や恋人に私たちはさまざまな期待をし、時に「本人のため」という理由から厳しい態度をとることがある。特に「親」という立場であれば、子どもを自立した大人にしなければ、というプレッシャー(注4)からどうしても厳しくなってしまうだろう。しかし、それは時に本人を必要以上に追いつめ、最低限の「自信」すら奪ってしまうこともある。(中略)

だからといって②毎日本当に食べて寝て遊んでばかりいられても困るといえば困るが、基本的には元気でいてくれたらそれでOKな気がする。

(雨宮処凛「子猫が教えてくれたこと」『ビッグイシュー日本版156』ビッグイシュー)

(注1)投稿：新聞・雑誌などに読者が送った原稿 (注2)ほっとする：急に何かに気づく
(注3)癒す：病気・傷・苦しみなどを治す (注4)プレッシャー：精神的な圧力

問1 ①振り返っていたのはだれか。

- 1 筆者 2 投稿者の女性
3 猫 4 投稿者の女性の子ども

問2 ②毎日本当に食べて寝て遊んでばかりいられても困るといえば困るとはどういうことか。

- 1 母親が全然子どもを叱らず放っておくと、子どもが困る。
2 母親が家事もせず、子どもの世話もしないと、ほかの人が困る。
3 子どもが遊んでばかりでは、大人になったときのことが心配で親は困る。
4 子どもが食べて寝て遊んでばかりいては体に悪いので、親は心配で困る。

問3 この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 自分の将来のために相手に期待をすることは恥ずかしいから、やめたほうがいい。
2 投稿者の女性が子どもにも猫にも優しく接するという話は、心温まることである。
3 子どもを自立した大人にするために、甘やかさず厳しく接するのはりっぱなことである。
4 相手のためと思ってとった厳しい態度が、逆に相手を追いつめてしまう場合もある。

練習54 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

間接的にでも政治的な活動をしている若者が増えているという。彼らはどんな動機で政治活動を始めたのだろうか。たずねてみると、「ほかの人と関わりを持ちたいから」という答えがよく返ってくる。人との関わりを求めて政治活動をするのか、と一瞬驚いたが、考えてみれば驚くことではなさそうだ。地域共同体の力が強かった時代は、地域の人との関わりを強制される面があり、自分から人と関わりを持つことはあまりなかった。しかし、①今は違う。

また、「趣味やボランティア活動の延長で、政治に出会った」という話も聞く。日常の仕事から離れてサークル活動やボランティア活動をする中で政治に出会い、自然な流れで②その活動に入っていったというケースだ。

以上は、仕事以外の生きがいを求めて政治に目を向けた例といえるだろう。

一方、「就職先として政治の場を選んだ」というケースもある。政治家の公的な秘書、その秘書が雇う人、事務所の職員など、その周囲にはかなりの職がある。政治家の任期が終わり、次の選挙に落ちれば職を失うことになるが、任期中は安定している。特に参議院の議員の任期は6年だから、その秘書も6年は仕事があるわけで、一般的なアルバイトなどと比べればはるかによい。こうした選択は、長期的な就職先を見つけることが困難な時代を反映しているといえるだろう。

問1 ①今は違うとはどういうことか。

- 1 以前は若者の答えを聞いて驚いたが、今ではその理由がわかっているので驚かない。
- 2 今は他人との関わりが強制されないので、自分から関わりを求めるようになった。
- 3 以前は地域の人と関わらなくてもよかったが、今は関わる必要がある。
- 4 今はほかの人と関わる必要がないので、政治的な活動がしやすくなった。

問2 ②その活動に入っていたとはどういうことか。

- 1 政治的な活動を始めた。
- 2 政治家として活動することに決めた。
- 3 政治家としてボランティア活動を始めた。
- 4 ボランティア活動が好きになっていった。

問3 この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 若者の政治的な活動は、単なる趣味の延長に過ぎないと考えることができる。
- 2 ボランティア活動に人との関わりを求めるなら、政治活動で自己実現したほうがいい。
- 3 政治に関わる職は安定しているから、若者はもっと政治活動に目を向けるべきだ。
- 4 若者が政治活動に入るのは、生きがいや就職先を求めているからである。

練習55 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

同じ温度なのに暖かく感じたり、すごく冷たく感じたりすることが、日常の生活の中にもよくあります。ただ、①あまり意識していないだけなのです。

たとえば、部屋の気温が20℃だとします。暑くも寒くもなく、ちょうどいい温度です。ところが、20℃の水風呂に入るとどうなるでしょう。相当冷たく感じますね。(中略)

熱の伝わりやすさを表す尺度を「熱伝導率」といいますが、その伝導率が高いものに触るとパツと速く熱が移動します。そのスピードが速いとき、体感的に冷たく感じるのです。

②これに比べて空気というのはなかなか熱が伝わりにくいのです。われわれは空気のその性質を利用して、熱を逃がさないようにしています。たとえば寒いときは、服を何枚も重ね着しますね。これは、重ね着をすることによって、空気の層を何層も作って、熱が移動しにくい状況をつくっているのです。住宅の壁の中に入っている断熱材も、基本的には空気をうまく閉じ込める仕掛けになっているわけです。ですから座布団など、ふわっとした、空気を包んだものを触ると、温かく感じますし、③20℃の空気の中にいればそれほど寒くも暖かくも感じない、ちょうどいい温度なのです。

(甲斐徹郎『自分のためのエコロジー』筑摩書房)

問1 ①あまり意識していないとあるが、何を意識していないのか。

- 1 部屋の温度が何度なのかということ
- 2 日常生活の中では温度がよく変化すること
- 3 同じ温度でも場合によって感じ方が違うこと
- 4 日常生活では本当の温度より冷たく感じることに

問2 ②これは何を指しているか。

- 1 熱
- 2 水
- 3 熱伝導率
- 4 熱が移動する速さ

問3 ③20℃の空気の中にいればそれほど寒くも暖かくも感じないのは、なぜか。

- 1 住宅の壁に断熱材が入っているから。
- 2 重ね着をして、空気の層を作っているから。
- 3 空気は熱伝導率が高く、熱が伝わりやすいから。
- 4 空気は熱伝導率が低く、熱を逃がしにくいから。



練習56 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

今までは、どちらかという、どんな心持ちで勉強や仕事をしていったほうが幸せだろうかという視点で考えてきましたが、そうではなくて、社会の制度のあり方として、どんなものがよいだろうかという点を考えてみます。

ひとつの提案は、もう少し進学のプロセスを変えてはどうか、少し大胆にいうと高校からダイレクトに大学へ進学するのを原則禁止して、いったん社会に出て働くことにしてはどうか、ということを考えています。

よく言われていることですが、日本の大学は、大学入試のゴール地点になってしまっていて、そこで何を学ぶのか、そこでどんなことを身につけるのかという意識がかなり希薄です。いっぽうでは、大学を出てから働き始めた多くの人、大学時代にもっと勉強をしておけばよかったと後悔したり残念がったりしている姿をよく見かけます。①これはとてももったいないことだと思います。

このようなことを言うと、ならば、大学でもっと勉強をさせるようにすればいいじゃないか、それは大学でちゃんと教えていない君たち教師の責任じゃないか、というお叱りを受けそうですし、たしかに②反省すべき点は多々あると思います。けれども、現状では大学生がなかなかやる気を持ってないという面もあるように感じています。

それは、実社会で実際の仕事などを経験してみないと、その学問の重要性や必要性を実感できないという面があるからです。とくに経済学のような学問はそういう傾向が強いように思います。

(柳川範之『独学という道もある』筑摩書房)

問1 ①これはとてももったいないこととあるが、何がもったいないのか。

- 1 勉強できる環境では勉強の必要性に気づけず、卒業後に気づくこと
- 2 苦勞して大学に入っても、大学の勉強が合わない学生が多いこと
- 3 本当に勉強したがっている卒業生が、大学に入り直せないこと
- 4 在学中の学生が、後悔している卒業生の姿を見ることができないこと

問2 ②反省すべき点は多々あるとあるが、反省するのはだれか。

- 1 大学生
- 2 大学の教師
- 3 叱っている人
- 4 大学を出てから働き始めた人

問3 筆者が大学進学について提案をしているのはなぜか。

- 1 大学進学者の数を少なくするため。
- 2 大学の授業をもっと深い内容にするため。
- 3 大学生がやる気を持てるようにするため。
- 4 大学に入ってから後悔しないようにするため。